

氏名	難 波 義 夫
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1174 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和56年3月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	全身性エリテマトーデスにおける尿中の低分子蛋白 第1編：尿中遊離 light chain に関する検討 第2編：尿中 β_2 ミクログロブリンに関する検討
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎 教授 長島秀夫 教授 野原 望

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

従来、正常人の血清・尿中に Bence Jones 蛋白の性格をもったものが認められ、各種疾患で上昇を認める報告があった。そこで筆者は、全身性エリテマトーデス (SLE) の尿中の低分子蛋白につき研究した。

第1編：SLE の尿中遊離 L 鎖を抗遊離 L 鎖特異抗血清を用いて SRID 法にて測定し、臨床像、血清学的所見との関連を検討した。その結果、尿中遊離 L 鎖は正常人では検出されず、SLE 61 例中 32 例で陽性で、その平均値は $175 \pm 247 \mu g/ml$ であった。また、SLE の活動性の指標となる抗核抗体、抗 DNA 抗体価、血清補体価との有意の相関を示したが、血清 γ -glob 値、尿蛋白量とは相関を示さなかった。同一症例でみた場合でも、尿中遊離 L 鎖は SLE 病態の活動性と平行して変動した。以上の結果により、SLE の尿中遊離 L 鎖の上昇は、intact の免疫グロブリンの破壊、腎障害による異化率の低下のためというより、なんらかの免疫異常の結果、遊離 L 鎖の産生増加がおこったためと考えられ、尿中遊離 L 鎖の測定は、SLE の活動性を知る一指標となり得る。

第2編：SLE の尿中 β_2 ミクログロブリン (β_2 -m) を radioimmunoassay 法にて測定し、尿所見、血清学的所見、尿中遊離 L 鎖との関連、さらに、尿中遊離 L 鎖ならびに尿中 β_2 -m と腎生検組織所見との関連を検討した。その結果、SLE における尿中 β_2 -m は $440 \pm 770 \mu g/L$ で、正常に比し有意に高値を示した ($P < 0.01$)。抗核抗体、抗 DNA 抗体価、血清補体価、血清 γ -glob 値、尿蛋白量とは有意の相関を認めなかったが、尿中遊離 L 鎖とは正の相関を認めた。尿中 β_2 -m は、腎間質の変化を認めたが、腎糸球体の変化とは相関を認めなかった。尿中遊離 L 鎖は、腎間質、腎糸球体のいずれにも相関を認めな

かった。以上の結果より，SLEの尿中 β_2 -mの上昇は，尿中遊離L鎖との相関からSLEの免疫異常も多少関与していると思われるが，主に，腎間質の変化を反映しているものと考察された。

論文審査の結果の要旨

本研究は全身性エリテマトーデスにおける尿中低分子蛋白について臨床的に研究したものであるが，従来十分確立されていなかった尿中遊離L鎖とか β_2 ミクログロブリンの変動について重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位をうる資格があると認める。